

家族同時内観療法を通して解決し得た 親子関係3例

医療法人耕仁会 札幌太田病院

○奥村弓恵₁₎、伊藤恵理₁₎、小坂ひとみ₂₎
市嶋優紀₃₎、太田耕平₄₎

1)心理士 2)看護師 3)作業療法士 4)医師

はじめに

- 当院では、思春期症に病棟内内観療法(以下内観)修了後、家族同時内観療法(以下本法)を実施している。
- 内観での気づきを相互確認し、親子関係の回復を目標としている。
- 今回、思春期3例の治療から、親子関係を検討する。

家族同時内観療法(本法)とは

<患者>

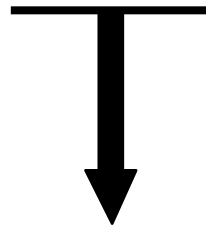
病棟内内観療法開始

<家族>

短期入院で同時内観

外来での通い内観

自宅での記録内観



家族同時内観療法

- ・内観で得た気付き(信頼感、感謝の念、報恩・相互扶助など)を伝え合う
- ・手をつなぐ、腕を組み合う、背中を支えあうなどのスキンシップの実施
- ・家族全員の協力を促し、本法での気付きを各々レポートで提出してもらう
- ・実施内容：独自のフォーマットを用いファイルで保管


症例 A子 14歳

- 主病名: 行為障害
- 主訴: 異性関係が不適切、化粧をしての登校
- 家族: 継母、実父、本人、妹
- 現病歴:
 - ・ 幼少期に両親離婚し、父親に引き取られる。A子小2時再婚。中1時いじめに遭い、不登校となった。
 - ・ 中2頃から家出、万引き、不特定多数の男子生徒と性的関係を持ち、成績低下。
 - ・ 高校進学を考え、学校側の勧めで転校したが、上記問題行動は継続。
 - ・ 両親が対応に困り、当院来院。A子は入院に同意せず、医療保護入院にて、治療開始。

A子の治療経過(入院期間17日間)

○入院初日から院内学校、運動療法等開始。

○入院2日目から、内観実施。入院12日目、両親来院し本法実施。

- 
- A子は「見捨てないでくれてありがとう。継母には正直気を遣って疲れた。転校させられて親を恨んだ。でも私を守るためだと分かった。わがまま言ってごめん」と述べた。
 - 両親は「甘えさせてあげられずごめん」と互いに詫びた。

○自宅外泊を経て、入院期間17日で退院。

○現在、登校は順調、親子関係も良好。


症例 B子 15歳

- 主病名:うつ状態
- 主訴:不登校
- 家族:両親、本人、妹
- 現病歴:
 - ・ 中学入学後、習い事、部活、学業の両立が困難となった。
 - ・ 成績低下と同時に難聴が出現。部活と習い事を辞めたが、中1後半は完全不登校。その後、1年間週2回程度の登校。
 - ・ クリニックに通院したが症状改善せず、当院にて入院治療開始。

B子の治療経過(入院期間15日間)

○入院初日から内観、運動療法、院内学校等開始。部活、習い事、学業での挫折体験を傾聴した。

○入院7日目から、当院より登校開始した。入院12日目に、両親と妹来院し、本法実施。

- 
- B子は「部活や習い事を辞めなかったのを親のせいにした。自己中心的だった。」と話した。
 - 両親は「B子が頑張り過ぎていたことに気付かずごめん。助言のつもりが、本人へのプレッシャーだった」と語り、互いの気持ちを確認した。

○自宅外泊を経て、入院期間15日で退院。

○現在、登校し良好。

症例 C男 16歳

- 主病名：不登校
- 主訴：不登校、昼夜逆転、家族への暴言、喫煙
- 家族：両親、本人、弟
- 現病歴：
 - ・中2頃から、親への暴言、喫煙等出現。高校進学し、部活で先輩から、坊主にするよう言われ従った。
 - ・その後頭痛を訴え、不登校となり2ヶ月経過。家族が学校の話をするとうるせえ、死ね」等暴言、興奮あり。
 - ・医療保護入院にて治療開始。

C男の治療経過(入院期間14日間)

○医療保護入院にて、入院初日から運動療法等参加。

○入院2日目から内観開始。

○入院5日目、両親と弟来院し、本法実施。



- C男は「こんな不良をここまで育ててくれてありがとう。」と語った。
- 家族は「C男の悩みを理解してなかった」と話し、互いに情動見られた。

○入院6日目から両親、学校教諭、当院職員の送迎で当院から登校開始。自宅外泊、家からの登校を経て、入院期間14日で退院。

○現在、再び不登校となり、本人希望で転校準備中。親への暴言は落ち着いた。

考察

- 家族間の交流不足、親の過干渉により、子は孤独、不安から自尊心、目標を喪失、症状が表面化したと考える。
- 父性、母性が欠如した未熟な家庭は、子の問題を解決できず、不登校、ひきこもり、家庭内暴力などの症状が進行し、家族全体の病理に陥りやすい。
- 上記3例は、内観、本法、作業療法、登校支援など一連の治療プログラムにより、症状の改善を認めた。

考察

- 本来の人との関わりを見つめ、恩恵、感謝、思いやりの心を取り戻すことが、回復につながる。これらには、内観療法が有効である。
- 健全な親子関係の回復には、相互の認知行動の修正が必要であり、本法はその有効性を再認し得たと考える。